研究成果の紹介

1 家庭消費用バラ切り花の効率的生産技術

ねらいと成果

近年、バラ切り花は業務用需要が減り、新しく手頃な価格の家庭消費需要が増えている。家庭消費に見合ったバラ切り花の長さは50cm程度で、現在のところ、ボリュームの不足した2級品が家庭消費用として流通している。そこで、家庭消費需要に適合した高品質バラ切り花を大量、かつ効率的に生産することを目的に、アーチング仕立てで栽培したバラを花の先端から50cmの位置で連続的に採花する手法を検討した。その結果、単位面積当りに得られる切り花本数及び切り花総重量が増加して、ボリュームのある家庭消費用バラ切り花が効率的に生産できることが認められた。

内　容

フロリバンダ系品種「バレリー」の挿し木苗を7月30日にロックウールマット（90×30×10cm）当たり12株を定植した。定植後、株元から発生したシュート2本を通路側へ折り曲げ、この枝を光合成生産物の株元への転流を促すための同化専用枝とした。以降、株元から発生したシュートが開花した時に基部で採花する区を基部採花区とし、花の先端から50cmの長さで採花する区を50cm採花区とした。基部から発生したシュートを採花した切り花を1番花、その母枝から発生したシュートを50cmで採花した切り花を2番花、その母枝から発生したシュートは葉腋部で採花し、3番花と呼称した（図）。なお3番花を収穫後は、母枝を株元まで切り戻し、以降は同じ操作を繰り返した。11月4日から翌年4月10日まで最低気温15℃に加温し、8月31日まで調査した。

50cm採花区の切り花本数は713.4本、切り花総重量は19.27kgで、慣行の基部採花区に比べてそれぞれ約18%、約4%増加した（表1）。家庭消費用切り花の規格を少し余裕を持たせて50～60cmとすると、これに適合する切り花の収穫割合は、50cm採花区では73.8%、基部採花区では29.3%であった。50cm採花区の切り花本数は526.2本、切り花のボリュームを示す指標となる切り花重／切り花長値は0.50で、慣行の基部採花区に比べてボリュームのある切り花が大量に得られることがわかった（表2）。

以上の結果から、50cmの一定長で連続的に採花する手法は、家庭消費用規格切り花の効率的生産に有効であることが判明した。

今後の方針

ハイブリッドティ系、ミニチュア系品種に対する50cm採花法及び採花する切り花の長さを変えた場合の有効性を検討する。

小山　佳彦（中央農技・園芸部）

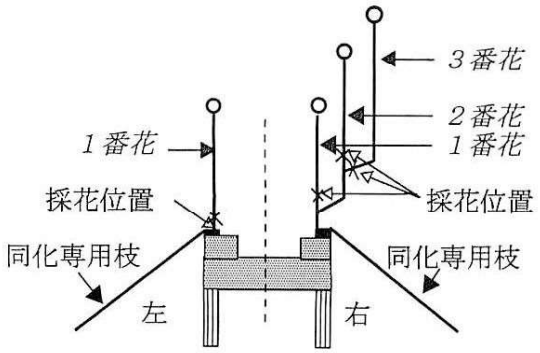

図 採花法と採花した切り花形態の呼称
左図：基部採花　右図：50cm採花

表1 50cm採花法が切り花収量に及ぼす影響

採花法	切り花の形態	切り花本数（本/㎡）	切り花総重量(kg)
50cm 採花	1番花	206.1	5.00
	2番花	279.0	6.75
	3番花	228.3	7.51
	合　計	713.4	19.27
基部採花	1番花	605.5	18.59

表2 採花法の違いが家庭消費用切り花の収量、品質に及ぼす影響

採花法	家庭消費用切り花（長さ 50-60cm）				
	収穫割合（%）	切り花本数（本/㎡）	切り花長（cm）	切り花重（g）	切り花重／切り花長値
50cm 採花	73.8	526.2	50.7	25.1	0.50
基部採花	29.3	177.5	55.7	23.6	0.42